

もうすぐ梅雨も明けて 夏休み 家族 友達との計画 どうなってる？

◇ 15

2013. 7. 3

JR東海労東二運分会

7月です。今年の梅雨明けは、今月20日前後になりそう？ です。気の早い人は、夏休みの計画を立てていることでしょう。

家族でのお出かけは、学校が夏休みというのが絶対条件となること間違いなしです。うっとうしい梅雨がちょうど明けるころです。でも悲しいかな、私たち鉄道業の稼ぎ時でもあり、休むのは至難の業となってしまいます。



もう一つのお出かけは、仲の良い友達と楽しい思いでつくりです。これは何とか夏休みを避けられそうです。それでも梅雨は避けたいので秋まで我慢でしょうか。いずれにしても「特公」では、休んだ気にも、楽しんだ気にもなれません。そこで「連続休暇」ですが、これも、思いは同じで、申し込みが殺到します。残る手段は、神に祈る気持ちの「上位 年休順位番号」のゲットです。

しかし、これまでの事情を色々な人から聞くと、せっかく「1番」をゲットしても「入らなかった」、頭に来たから、1ヶ月全部年休を申し込んだ、というもの凄い人がいたと聞きました。あとは野となれ山となれ。そうです。年休は取れず、保存休暇は満杯になってしまい、最後は年休も流れてしまうのです。

国労・ユニオン組合員のみなさん

年休を申し込んでも入らないのは、20日間の年休を消化できるだけの要員がないからからです。年休は、法律によって会社が責任をもって、社員のほしい日を与えるように、となっており、これは社員の権利として法律で保障されているということです。逆に会社は、業務上やむを得ない時は別の日に指定の時季を変更できる権利を持っています。でも、あくまでも社員に「変更のお願い」をするのが原則です。

会社は時季変更について、時季変更の日は指定しない。社員が申し込んで、入る状況なら入る、と言っています。つまり、いつまでたっても年休は入らないということです。昨年は17日、世間水準からすると十分、と開き直っています。問題は私たちが20日を完全に取得できるのか、です。何と言っても20日の年休を消化できるだけの要員がないのだからどうしようもありません。

東海労は、年休を流さなくても良いような対策をとるようと、会社と交渉をしています。他労組のみなさんは、組合からどのように説明をしてもらっていますか。

「法守る 姿勢は見えぬ 規律だけ」 C D 頑爺

